

「保育」の原点 114

3カ月健診のときのチェックポイント

文

葛西得男

text by Tokuo Kassai

や

つと赤ちゃんの扱いにも少し慣れて、心も落ち着いたころ、保健所からの通知で3カ月健診に向くと、同じ月齢の赤ちゃんがたくさん集まっていますから、どうしても他の赤ちゃんとくらべてしまいます。

しかし、赤ちゃんはみんなその子なりの発育をしていて、この世に、二人と同じ赤ちゃんはいません。勝手に優劣を決められては赤ちゃんが迷惑します。あなたの赤ちゃんなりの成長に、関心を持っていただきたいと思えます。

3カ月健診は異常の早期発見に重点がおかれています。ここではお母さんの目で確かめられるチェックポイントをお知らせしておきましょう。

赤ちゃんの目を見つめながら、ゆっくりゆっくりお母さんの顔を右に動かすと、赤ちゃんの目がついてきますか。目玉が端に行きつくと、今度は顔を傾けてお母さんの目を追うでしょう。反対側にも同じことをしてみてください。

内藤寿七郎著
『育児の原理』

の動きをじっと追ってくれれば、注意の持続時間は申し分ありませんし、目と顔の協応動作もうまくいっている証拠です。顔が180度、左右十分に動いてい

ば、斜頸の心配もありません。

体重と身長の伸び具合は、母子手帳の発育グラフに書き入れて、生まれた時のそれと線を引いてつないでください。たとえ測った目方は少なくとも、グラフの線にほぼ平行しているならそれでよいのです。

成長という点からいえば、身長伸びは大変重要と考えてよいでしょう。身長が順調に伸びているなら、成長ホルモンは正常に分泌されているはず

です。頭囲のチェックも大切です。頭は小さ過ぎても大き過ぎてもいけません。その目安は胸囲です。赤ちゃんの胸囲と頭囲は、3カ月ごろから生後1年間ほぼ同じ値です。

異常という点、よく、頭の形を気にしがちですが、たとえ片方が平らで、他方が凸になっていようと、ちっともかまいません。ひとり歩きが始まると、次第に円形状に近く変わります。万が一に少し形が変でも、脳の働きにはちっとも差がありません。

お母さんのおなかの中にいたときの、体の向き方が残っているのではないでしょう。赤ちゃんにも体の癖があります。いつも同じ方向を向いていると、頭の形が悪くなると気にする方があり

ますが、頭の形は脳の発育によって自然と丸くなっていくものです。頭の形は正常、異常に関係ありません。

生後1年間は、小児科医の定期健診を受けるでしょう。その時に異常が見つからなければ、少しも心配しなくてよいのです。この世界に二人と同じ赤ちゃんはいないということをもう一度強調しておきましょう。

赤ちゃん同士比較して一喜一憂するのはもったいも愚かなことです。小児科医の健診を信頼して、心配な点はなんでも相談することです。

『育児の原理』より



Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アプリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松福会 理事長に就任。
松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アプリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アプリカ葛西 副社長時代に国連環境計画 (UNEP) のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

